



平成 23 年 6 月 17 日

肺がん抗原遺伝子に関する基盤的共同研究および樹状細胞ワクチンを用いた 原発性肺がんの術後補助治療に係る共同臨床試験を開始

免疫細胞療法の専門医療機関である医療法人社団 混志会 瀬田クリニックグループⁱ(以下、「瀬田クリニックグループ」)は、株式会社メディネット(神奈川県横浜市、以下「メディネット」)と共同で、肺がん抗原遺伝子に関する基盤的研究を行なうと共に、原発性肺がんを対象とした、樹状細胞ワクチン療法ⁱⁱに係る臨床試験を開始いたしましたので、お知らせいたします。

原発性肺がんは、早い病期では外科手術が治癒をもたらす最も有効な治療法とされています。しかしながら、少しでも進行した場合には、手術の後に術後補助療法として抗がん剤が用いられるものの、生存率の改善効果は小さいのが現状であり、原発性肺がんの新たな術後補助療法の開発は重要な課題となっています。

本共同研究は、瀬田クリニック福岡 安元 公正 総院長(産業医科大学名誉教授)を研究責任医師として実施するもので、基盤研究においては、手術によって取得される原発性肺がん患者さんの自己腫瘍組織から肺がん抗原を検索し、新たながんワクチン、免疫細胞治療への応用を推進してまいります。同時に、同基盤研究にご協力いただく患者さんを対象に、自己腫瘍組織を抗原としてエレクトロポレーション法で取り込ませた樹状細胞ワクチンと、標準術後補助化学療法との併用による術後補助治療を臨床試験として実施し、樹状細胞ワクチンに係る更なるエビデンスの拡大に取り組みます。本共同研究は、8 名の方を対象に実施する予定にしています。

エレクトロポレーション法は、電気穿孔法とも呼ばれ、細胞に電気刺激をかけ一過性に細胞膜の透過性を高めることにより、たんぱく質等を細胞内に送り込む技術です。メディネットが米国 MaxCyte 社と共同開発したエレクトロポレーション法を用いる樹状細胞加工技術では、樹状細胞に電気刺激をかけることで樹状細胞ががん抗原を取り込む効率が大幅に向上します。本技術を用いて大量培養時の細胞活性を検証した結果、従来の共培養による加工法に比べ、約 10 倍の抗原取り込みと最大 20 倍程度の CTL 誘導能が向上することが確認できています。

本共同臨床試験が、原発性肺がん切除後の術後治療として、樹状細胞ワクチンを用いることで、より高い治療効果を示す新たな術後補助療法の開発につながるものと期待しています。

以上

本件に関するお問い合わせ:

医療法人社団 混志会 法人事務所
東京都千代田区飯田橋 3-6-5 こころとからだの元氣プラザ 8 階
TEL: 03-3511-0150
Email: info@j-immunother.com
URL: <http://www.j-immunother.com/index.html>

ⁱ 医療法人社団 混志会 瀬田クリニックグループ

1999年3月に免疫細胞療法の専門医療機関として開院し、現在は、東京、札幌、新横浜、大阪、福岡にクリニックを開設。現在、58の連係医療機関との医療連携により、患者さんが全国各地で免疫細胞療法を受診いただける環境の構築を進めております。これまでに受診いただいた患者様は11,000名を超え、免疫細胞療法について蓄積した経験や症例数は、世界でも類を見ない規模となっております。

ⁱⁱ 樹状細胞ワクチン療法

樹状細胞は、がん細胞に由来するたんぱく質を貪食し、それをがん抗原としてTリンパ球に提示することにより、がん細胞を特異的に攻撃するTリンパ球を誘導する。この働きを利用した免疫細胞療法の一種。